

令和6年度 横浜市立戸塚高等学校 学校評価報告書

取組分野	令和 6 年度		総括	
	取組目標	自己評価		
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進	○自己の在り方、生き方を考えながら課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究の意義や価値の理解を深める。 ○課題を主体的に解決しようとする能力や態度を身に付ける。	○生徒による学校評価10「『総合的な探究の時間』では、主体的に考え、行動し、問題解決ができる」において86.1%から、目標を実現できているという評価を得た。令和7年度は教材や全体計画の変更も検討しており、教職員全体で総合的な探究の時間の取組のさらなる改善に取り組む。 ○教職員による学校評価7「趣旨やねらいを踏まえ、学校の基本的な考えを明確にした構想や計画を立てている」において73.1%、教職員による学校評価8「主体的に問題を解決する資質や能力が身につくように、学習活動を展開している」において71.7%と、70%は超えているものの、さらに改善が必要である。生徒のカリキュラムを充実していくとともに、職員研修等を通じて教職員全体で取り組むことができる組織づくりが必要である。	B
	魅力ある学びの創出に向けた取組	○生徒の学力向上を目指して「社会につながる協働的な学習」を推進し、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業の充実を図る。 ○特別活動、部活動等において、生徒の主体的な活動を支援して自主・自律の精神を育てる。 ○中学校・高校・大学・地域との連携事業を通して、生徒の学習意欲の向上とキャリア教育の充実を図る。	○生徒の授業に対する評価は令和6年度も良好である。令和6年度は、1年次の全教室にプロジェクターを設置するなど校内のICT化を進めることができた。それを利用するそれぞれの教員が努力を重ねることで、授業の充実を図ることができていると考えられる。 ○特別活動、部活動等、生徒の主体的な活動に対する評価が上がっている。担当を中心に努力した結果であると考えられる。令和7年度も推進していきたい。	B
	多様化する生徒への支援	○授業改善を推進しながら「一人ひとりを大切に」教科指導の充実を図り、基礎学力の定着と学習習慣の確立を目指す。 ○卒業後の進路を見据えたキャリアガイダンスを充実させ、生涯にわたる職業観の育成を図る。	○授業見学週間を設置したり、研究授業を実施したりすることで、日々授業改善を推進している。 ○キャリアガイダンスにおいては、面談期間で担任と話す機会を多くもち、それぞれの担任が生徒、保護者に丁寧に対応することや、高大連携のさまざまな取り組み等が充実してきている。さらに推進していきたい。	B
人材育成の取組目標	○教職員のキャリアステージに応じた人材育成を図り、教職員一人ひとりの積極的な学校経営参画を推進する。 ○生徒の学習意欲を伸ばす人材育成を推進する為、教科内でのOJTや校外でのOFF-JTを積極的に進めながらすべての教科で「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした学習指導を行い、指導力と授業力の向上を図る。	○教職員による学校評価1「『魅力ある高校教育の推進』に向けて学校全体として取り組んでいる」において、肯定的な回答をした教職員が令和5年度より18.5ポイント増加した。教職員一人ひとりの積極的な学校経営参画が進んでいることとして評価できる。 ○教職員による学校評価21「教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている」において、令和5年度より11.6ポイント上昇したものの、肯定的な回答をした教職員が全体の67.6%と70%を下回った。人材育成の観点で効率的な研修のあり方を考えて行くことが必要である。	B	
教育目標等の設定・実施	○学校教育目標の「自主」「協働」「連帯」、中期学校経営方針及びブランドデザイン、スクール・ミッションやスクール・ポリシー等についての理解を深め、目標の達成に向け努める。	○教職員による学校評価16「学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる」において、肯定的な回答をした教職員が令和5年度より13.9ポイント増加し、85.1%であった。教職員全体が、学校教育目標の実現に向け連携し、協力して日々の業務を遂行できている。さらに進めて行くよう努力を継続していく。	B	
組織運営(働き方改革)教職員研修	○教職員が意欲と責任を持って校務を遂行できるチーム力を高めると共に教職員間の連携を強化する。 ○授業評価や教員間の授業公開を実施し、授業研修の活性化を図る。 ○効率的に校務を行う意識の向上を図る。	○教職員による学校評価17「学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている」において、肯定的な回答をした教職員が令和5年度より21.3ポイント増加し、86.5%であった。教職員組織の主任を中心にチーム力が高まっている。教職員による学校評価に関しては、他の項目でも肯定的な回答の割合が高まっている。さらに連携を強化し、日々の教育活動に還元できる組織運営を目指す。	B	
教育課程	○学習指導要領の具体的な対応に取り組み、教育課程の更なる充実を図る。 ○研修の機会を通して、教職員の共通理解を進める。	○現教育課程が、令和6年度で3学年揃った。生徒による学校評価1「希望する進路に進むために必要な科目や興味・関心を満たす科目が設置されている」において肯定的な回答をした生徒が94.8%であった。教育課程編成が、生徒・保護者の求める内容と合致していると考えられる。 ○全職員の合意形成をきちんとはかり、生徒への事前説明もしっかりと行ったうえで、開閉講の過程を進めることができた。	A	
教科指導	○すべての教科で「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした学習指導を行う。 ○ICTを積極的に活用した授業を研究・実施し、学習・指導方法についての研究を進める。	○各教科が生徒の実態に応じて適切な指導計画を立て、生徒の資質・能力向上に向けて、主体的に学習に取り組む「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業の充実を目指して取り組んでいる。年2回の授業見学週間を実施し、互いに学び合いながら授業改善に取り組んでいる。 ○1年次の全教室にプロジェクターが整備され、効率化と教育効果が高まった。	B	
特別活動部活動	○特別活動や部活動等において、生徒の主体的な活動を支援すると共に自主・自律の精神を育て、社会性豊かな人間性を育てる。	○生徒主体で運営できる生徒会、委員会、行事になるよう各担当が意識して支援し、生徒との対話を大切にしてきたので、概ねどの結果も達成できた。今後も生徒主体で運営できるよう支援しながら、社会性豊かな人間性を育成したい。	B	
生徒指導教育相談(特別支援)	○基本的な生活習慣を確立させるとともに、公共心・道徳心を養い、お互いの人権を尊重できる生徒を育てる。 ○スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーと連携し、特別支援教育委員会を通じて個々の生徒に応じた教育相談活動を充実させる。	○基本的な生活習慣の確立においては各ホームルーム、年次で遅刻指導を強化して行い、成果が出ている。ただし地域の方による学校評価4「生徒は登下校の際のマナーが身についている」においては87.5%(-2.5ポイント)、地域の方による学校評価5「生徒は近隣に迷惑がからぬような行動をこころがけている」においては88.9%(-11.1ポイント)と令和5年度より下がっていることを踏まえ、今後の指導に活かしていきたい。 ○生徒による学校評価2「あなたはホームルーム(学級)で良好な人間関係を築くことができている」においては96.1%の生徒が肯定的な回答であった。学習環境としても満足いく環境が保たれていると感じる。 ○規範意識等の適切な指導については、保護者による学校評価5「生活習慣や規範意識を身に付けるための適切な指導が行われている」において81.8%(+5.9ポイント)、教職員による学校評価12「生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行うことができる」において79.8%(+4.0ポイント)と、ともに令和5年度を上回っており、一定の成果は出ていると思われる。 ○心の悩みを抱える生徒が急増しており、スクールカウンセラーの利用も増えている。また外部機関とも連携する案件も増加傾向にある。	B	
キャリア教育進路指導	○スタディーサポート等の効果測定を計画的に実施し、その結果を分析・活用して生徒の進路希望の実現を図る。 ○卒業後の進路を見据えたキャリアガイダンスを充実させ、生涯にわたる職業観の育成に努める。	○教職員による学校評価13「生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切に取り組んでいる」において、85.1%が肯定的に回答した。3年間のガイダンス計画や生徒の学習状況などが、各年次の指導や研修会を通して、教職員間では共有されていると考えられる。 ○生徒による学校評価6「進路に向けての明確な目標を持っている」において、79.5%が明確な目標を持っていると回答している。さらに生徒による学校評価7「進路説明会等で進路に関する情報を理解することができた」において87.7%が情報を理解していると回答していることから、各年次に応じた指導を継続的に進めている効果が出ている。大学進学のための情報提供だけでなく、職業別や分野別のガイダンスを定期的に行っている効果もある。 ○保護者による学校評価7「進路希望に応じた適切な指導が行われている」において83.6%が肯定的な回答をしている。保護者会や面談等を通じて定期的に情報を公開している効果が出ている。今後も、スタディサポートや模擬試験のデータをもとに現状に即した情報の公開をしていきたい。	B	
保健指導環境美化	○生徒の心身の健康の保持・増進の意識と実践力を育成する。 ○教職員と生徒が一体となり保健環境整備を一層進め、地球環境保護の意識を高める。	○環境美化に関する評価は、教職員による学校評価15「資源リサイクル等、省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる」において78.4%(+5.7ポイント)、生徒による学校評価9「学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる」において87.1%(+6.5ポイント)、保護者による学校評価9「環境美化に努め、校内の教育環境がきちんと管理されている」において87.5%(+2.3ポイント)といずれも令和5年度を上回っている。今後もゴミの分別も含めて環境美化対策に取り組んでいく。 ○健康管理、保健指導の項目について、生徒による学校評価8「生徒の健康管理について適切な指導をしている」において91.9%(+4.1ポイント)に対し、教職員による学校評価14「学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している」において87.7%(+6.1ポイント)、保護者による学校評価8「生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている」において78.3%(+1.4ポイント)という評価となっている。教職員による学校評価14の「全く実現できていない」が0%であったことは評価できるが、感染症や熱中症等、昨今の健康問題に対する情報を発信し、生徒への意識付けと行動変容に繋げる取り組みが必要だと考える。	B	
学校経理施設・設備情報の管理	○公金及び準公金の執行に対する意識を高め、計画的で適正な管理を行う。 ○校内施設点検及び危険箇所の点検を定期的に行い、教育環境の整備に努める。 ○個人情報及びその媒体の学校管理を徹底する。	○公金・準公金において、令和6年度も本校PTAによる会計監査が実施されたが問題となるような指摘はなかった。 ○令和6年度の校内施設に関しては大規模修繕として受水槽、変電室の更新及び男子用トイレが改修された。令和7年度は女子用トイレが全面改修の予定。また、消防点検で指摘のあった避難袋の更新工事を実施した。 ○個人情報については、定期的に研修を実施し、意識の保持に努めた。	B	
保護者・地域等との連携協力	○PTA活動の充実を図り、保護者との組織的かつ継続的な連携を一層深める。 ○学校運営協議会を通じて地域と連携した取組を充実させる。	○保護者による学校評価11「学校の様子は家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えられている」において、肯定的な回答が令和5年度より高い。ホームページや三者面談、また「すぐーる」(学校と家庭の連絡ツール)の利用などを通して、効果的な情報共有を行えることができた。 ○地域の方による学校評価1「学校は地域の人材や施設を教育活動に生かしている」、地域の方による学校評価8「生徒は社会貢献(地域清掃や地域ボランティア等の取組)の活動や部活動により地域貢献ができている」の評価が令和5年度より高い。「総合的な探究の時間」や防災活動・ボランティア活動等を通じて、引き続き地域との関係を大切にしたい。	A	
危機管理	○安全・安心な学校づくりを第一に、全教職員で取り組む。 ○大規模地震に対応した避難訓練等を通し、生徒の防災・減災および危機管理意識を高める指導を進める。	○防犯カメラの刷新や通学路での見守り、行事における防犯対策など、生徒の安全を第一に様々な取組みを行った。 ○自主防災組織の見直しなど、防災への取組を充実させるべく防災関連の組織編成を実施した。令和7年度は、実際に災害が起きたときの職員の動きなどに関して詳しくシミュレーションを行い、災害時の備えを確実にする。	A	
学校に関する情報公開	○学校ホームページや電子配信端末を適切かつ有効に活用して、正確で迅速な情報発信を進める。 ○学校説明会及び中学校訪問(進路学習会)等を積極的に実施し、学校情報の公開に努める。	○取組目標はおおむね実現できていると評価できる。中学生向けは学校ホームページなどに必要な内容を掲載し、学校説明会では設備見学なども含め実施した。また近隣の中学校を訪問した学校説明も積極的に行っている。 ○生徒・保護者・教職員向けの配信システム「マチコミ」を廃止し、市全体で導入された「すぐーる」の利用に切り替えた。地域に向けた学校情報の公開は紙媒体で自治会に回覧している。	B	
いじめへの対応	○生徒一人ひとりへの理解を深めるとともに、教職員間及び保護者との情報共有に努める。 ○校内の支援体制を点検し、いじめ問題等への未然防止と早期発見に努める。	○概ね達成できていると考える。年3回アンケートを実施し、気になる記載があった生徒は教育相談に繋げ迅速に対応した。また、保護者への情報共有にも努めた。 ○支援体制については、組織的な対応ができるように研修を充実させ、共通理解を図った。	B	
学校関係者評価書提言	○地域等との連携協力について、教職員に今以上に地域の活動を理解して欲しい。評価することより活動の内容を知ること、今後、学校と地域がお互いに相互評価できるような関係となることに期待したい。 ○保護者や地域等との連携協力について、E「判断できない」という回答の教職員が多い。A「十分に実現できている」やB「おおむね実現できている」の値の推移に限らず、E「判断できない」にも注目して欲しい。 ○地域の方による学校評価7「学校は校舎・グラウンド等の近接に接しているところも清掃し、環境美化に努めている」、地域の方による学校評価10「防災、防犯に対して、地域と協力している」の値が下がっているが、実際には、部活動の生徒が校舎の周りのごみ拾いを実施し、野球部やサッカー部が防犯パトロールに参加している。学校が現在取り組んでいることを上手に外部に情報発信していくべきである。			
学校関係者評価書提言に対する考え	○学校が今以上に地域への情報発信を増やし連携を密にする中で、相互理解と相互協力につながるよう努力すべきである。 ○E「わからない」が増加しているアンケート項目がある状況を冷静に受け止めて、可能な限りの原因分析が必要である。			
中期取組目標振り返り	○当初の3か年計画の2年目として、令和5年度と比較してアンケートの結果は全体的には評価が上昇の傾向がある。より地域との連携を密にして相互協力を目指し、本校の学校運営・教育活動につながるよう教職員が一体となり目標達成へつなげるべきである。			